



ほんじゅく

地域の教育力

校長 越前 信

残暑厳しい中、二学期が始まりました。保護者・地域の皆様には、夏休み中も本宿小学校の教育活動を支えていただき、ありがとうございました。子どもたちが元気に学校生活を送り、一人一人のよさを伸ばしていけるよう、教職員一同、力を尽くしてまいります。

さて、8月22日・23日の両日、本校校庭にて盆踊りが開催されました。実行委員の皆様をはじめ、多くの地域の方々が、この猛暑の中、何日も前から準備に汗を流してくださいました。模擬店の準備、やぐらの組み立て、提灯の飾り付け、当日の運営に至るまで、本校卒業生を含む地域の皆様のご尽力があったからこそ、この二日間を迎えることができました。PTAの皆様にも、暑い中、準備やブースの運営にご協力いただきました。実行委員の中には、かつて本校に通っていた卒業生が、今では立派な大人となり、運営や企画、ボランティアの中心を担っている姿もありました。

当日は、小さなお子さんからご高齢の方までたくさんの方が集い、輪になって踊る人々の姿、浴衣姿の子どもたちの笑顔があちこちに見られました。ふだん子どもたちが毎日通っている「いつもの学校」が、この二日間は、地域の方々が肩を寄せ合い、顔を合わせ、笑い合う「特別な場所」に姿を変えました。一日目には、本校を巣立っていった中学生が20名ほど駆けつけ、在校生の吹奏楽団とコラボレーションして演奏を披露しました。中には、卒団してから一度も楽器に触れていない生徒もいたそうですが、それでも「本宿小に帰ってきたい」という気持ちで参加してくれました。久しぶりに手にした楽器で、懐かしい仲間や後輩たちと音を重ねる姿を見て、母校を思う気持ちこそ、子どもたちに育みたい「自他の幸せと豊かな社会を実現する未来の創り手」の姿だと感じました。子どもにとって学校が「自分の居場所だ」と安心できる場所であると同時に、母校を巣立った卒業生にとっても、いつまでも帰ってこられる大切な場所になっていることを感じました。また、今回は東部防災会の皆様にもブースを出していただきました。準備を進める中で、災害用ライトの一つが実際には点灯しないことが判明したそうです。もし実際の災害時に、このライトが、

必要な場面で使えなかったらと考えると、決して小さな出来事ではありません。イベントの賑わいの中にあっても、こうした「もしも」に備える点検の機会があることは、とても有意義です。楽しさの中にも、安全・安心への備えを進める姿勢に、改めて頭が下がる思いでした。

今回の盆踊りを通して感じたのは、地域の大人たちが互いに協力し、地域のために力を尽くしている姿を子どもたちが見ることそのものが、とても大切な学びになるということです。大人たちが、それぞれの立場や得意なことを生かしながら力を合わせ、年齢や世代を越えて声を掛け合い、一つの行事をつくり上げる様子を、子どもたちは、言葉で教えられるのではなく、実際の姿として目にします。こうした経験が、「地域は誰かがつくってくれるものではなく、自分たち一人一人が支えていくものなのだ」という感覚を育てていくのだと感じました。今、地域を支えている大人たちの姿を見て育った子どもたちが、大人になったとき、今度は自分が地域を支える側になっていく。そうした営みが世代を越えて繰り返されることこそ、地域の教育力なのだと思います。学びや育ちは、卒業した瞬間に終わるものではなく、卒業してもなお学校や地域とつながり続け、形を変えながら続いていくものなのだと、改めて教えられた思いです。記憶の中に刻まれたこの夏の思い出が、子どもたちが大人になった時、今度は自分が地域のために力を尽くす、そんな温かなつながりの種になっていくと感じました。

近年、学校に求められる安全管理は、以前と比べて多様かつ厳しさを増しています。私たちが子どもの頃には考えもしなかったような事故や事件が、全国各地で報じられる時代になりました。だからこそ学校は子どもたちにとって、そして地域の皆様にとっても、安心して過ごせる場所であればなりません。今後も「安全第一」を土台としながら、地域の皆様と手を携え、子どもにとっても、地域の皆様にとっても、変わらず「楽しい場所」であり続けられるよう努めてまいります。今後とも皆様の変わらぬご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。